

ミナミアカヒレタビラ (コイ目、コイ科) *Acheilognathus tabira jordani* Arai et al., 2007

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

他のタナゴ類と同様産卵対象とする二枚貝の生息地域が極端に減少したため、生息地が極限される。イタセンパラやヤリタナゴと比べると生息確認地点が少なく、極めて絶滅のおそれの高い種である。

形態

成魚は8cm程度でヤリタナゴよりやや小さい。産卵期のオスは口の周辺に追星^{おひし}ができ、婚姻色は体側の前半部が赤くなり、側線に沿って青緑の縦条が目立つ。

国内の分布状況

島根県、鳥取県、福井県、石川県および富山県。

県内の分布状況

富山市横越排水路、下条川、仏生寺・万尾川、上庄川の各水系。

生態・生息環境

メスはイシガイ類の外套腔^{がいとうこう}内に産卵管をさし込み産卵する。これら二枚貝の生息する流れの緩やかな河川や集排水路に生息する。

生存への脅威

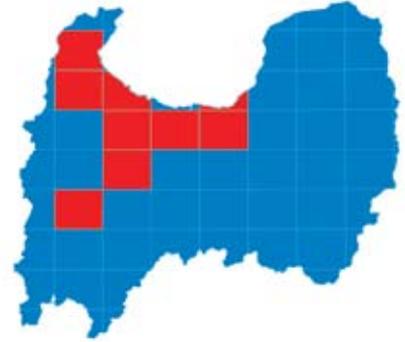
河川改修(護岸、直線化)が進み、生息環境の喪失および生息地の分断化が進んでいる。これらの状況は産卵対象とする二枚貝類にとっても脅威となっており、二枚貝の減少が本種の繁殖機会の低下をもたらしている。さらに放流された外来魚オオクチバスなどによる捕食やタイリクバラタナゴとの産卵対象、餌、生息地の競合が生じている。

保全対策

産卵対象とする二枚貝類の生息環境の保全と外来魚の駆除が必要である。

特記事項

富山県の個体群は国内分布の北限にあたる。二枚貝類の生態についての知見が少なく、生息条件に不明な部分が多い。和名がアカヒレタビラから変更された。



ホクリクサンショウウオ (サンショウウオ目、サンショウウオ科) *Hynobius takedai*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

富山・石川両県にのみ生息し、県内の生息地点の多くで環境の悪化と個体数の減少が見られる。

形態

全長10～11cm。背面の体色は、オスは黒褐色、メスは黄褐色で不明瞭な斑紋が散在する。鋤骨歯列は浅いU字又はV字型。肋条数は通常12本。前肢と後肢を体側に沿って曲げると指間に0.5～2肋皺分の隙間ができる。後肢は5指性。繁殖期にはオスの尾は鱗状になる。卵のう外皮には縦の条線がない。



国内の分布状況

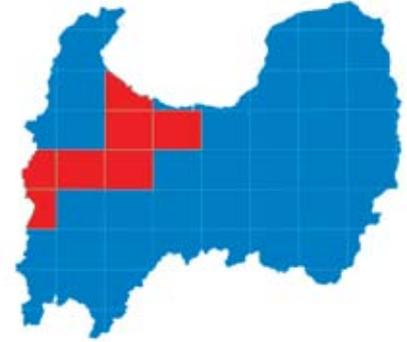
富山県西部と能登半島を中心とした石川県。日本固有種。

県内の分布状況

県西部の丘陵地で生息が確認されている。何れの生息地も繁殖個体群は小さく、土地開発や里山の水田の放棄が進み繁殖池や溝の破壊により消滅した生息地がある。

生態・生息環境

夏緑広葉樹の二次林とスギ人工林等に生息し、繁殖は丘陵の谷にある池や湿地、水田の溝、林道の側溝などの緩やかな流れの中が産卵場所となっている。成体は倒木や岩石の下、落葉の下で生活する。富山県の産卵盛期は2～3月で、1腹卵数は平均80個ほどで、40～110個程の範囲にある。幼生の多くは夏に幼体となるが、越年する個体もいる。早いものは3年で成体となる。



生存への脅威

県内の生息地は丘陵地であり、ゴルフ場や道路建設、宅地や農地の開発、里山の水田の放棄、ゴミの不法投棄等により生息環境が急激に悪化している。

保全対策

生息地の森林の保全、繁殖場所のため池や水田の溝で産卵しやすいような環境復元を図り、種の保続に努めることが急務である。なお、県内では、富山県自然博物館ねいの里、富山市ファミリーパーク、高岡龍谷高等学校理科部によりホクリクサンショウウオの保護活動が行われている。

特記事項

日本産の小型サンショウウオ類(サンショウウオ科)は種分化が著しく、日本各地に固有の種が分布している。本種も富山・石川の両県の狭い分布域で、特に止水性のサンショウウオ類の進化を探るうえで重要な種である。

ハクバサンショウウオ (サンショウウオ目、サンショウウオ科) *Hynobius hidamontanus*

富山県カテゴリ：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリ：絶滅危惧ⅠB類

選定理由

前回の選定では、ヤマサンショウウオ *Hynobius tenuis* とされたが、遺伝子研究に基づきハクバサンショウウオと同一種とされ、今回の選定よりハクバサンショウウオとして扱う。

ハクバサンショウウオは、中部地方の極めて限られた地域に限られ、県内の生息地の環境が悪化している。

形態

全長約8cm。背面は紫がかった暗褐色で淡黄色の小斑点が密布する。鋤骨歯列はV字型。前肢と後肢を体側に沿って曲げると指間に1.5～2肋皺分の隙間ができる。後肢は4指性。卵のう外皮に縦の条線はない。



国内の分布状況

長野県白馬地方、富山県南部、岐阜県北部の山地に生息している。日本固有種。

県内の分布状況

現在知られる県内の生息地は、県南部、東部の山地である。

生態・生息環境

県内の産卵期は4～6月で湿地や林縁の水溜り、林道や作業道の側溝などに産卵する。産卵場所は完全な止水ではなく、流水が多少あり、落枝、落葉が泥底にある場所。富山県の産卵場所の一腹卵数は約30個で、20～50個ほどの範囲にある。

生存への脅威

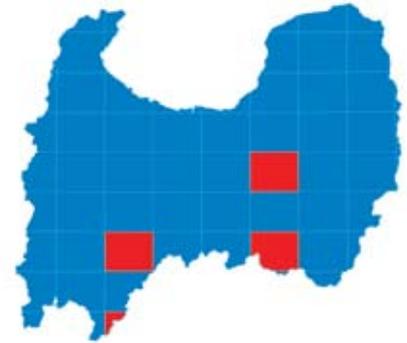
県内の生息地は、山地帯にあるが、林道の拡幅や舗装整備、側溝改修等で生息地が消失している。

保全対策

生息地の森林の保全、湿地等の繁殖環境の保全が必要である。

特記事項

本種は止水産卵型の小型サンショウウオ(サンショウウオ科)であるが、生息地は中部地方日本海側の山地に局所的に生息し、尾の形態や卵数など、流水に適応した特徴を持ち、日本産小型サンショウウオ類の進化・生物地理を探るうえで重要な種である。遺伝子研究に基づき、富山県と岐阜県のヤマサンショウウオは長野県のハクバサンショウウオと同一種とされた。(Matsui et al.,2002)



サギソウ (ラン科) *Pecteilis radiata* (Thunb.) Raf.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：準絶滅危惧**選定理由**

里山の放棄等により二次遷移が進行したため生育環境が衰退し、生育地が一部に限定されている。また、花が美しいために観賞用の山野草として採取され、個体数はわずかである。

形態

高さ15～40cm、茎の下部に小線形の葉を3～5個互生し、その上部に数個の裂片葉がある。上部に白鷺に似た白花をつける。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

入善町北部、黒部市北部、上市町北西部、富山市中部、南砺市中部。ほとんどの地点で既に絶滅している。

生態・生育環境

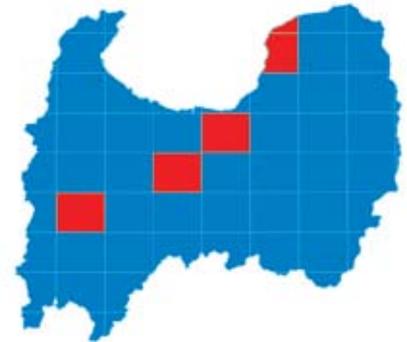
日当たりのよい湿地に生育する多年草で、前年にできた地中の球茎から芽を出す。花期は7～8月。

生存への脅威

生育地の管理放棄による二次遷移、園芸採取。

保全対策

生育地の環境確保と保護管理、採取の抑制。

**フクジュソウ** (キンポウゲ科) *Adonis ramosa* Franch.富山県カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類(VU)**選定理由**

県内では生育地が極めて限定されている。近年、二次遷移で周囲から他の植物の侵入が顕著に見られ、このため生育域が狭められ、個体数が減少している。また、花が美しいために観賞用の山野草として採取される。

形態

高さ15～30cm。茎は太く下部には鞘のある鱗片葉がある。葉は互生し、3～4回羽状に細かく裂け、花が終わる頃に展開する。枝先に直径3～4cmの花を1～数個咲かせる。花弁は20個前後あり、光沢のある黄色。萼片は数枚あり、外側は暗紫緑色を帯びる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市南部、南砺市中部。

生態・生育環境

落葉樹林の明るい林床や開放地に生育する多年草で、しばしば群生する。花期は3～4月。周囲の植物が茂るころにはほぼ活動を終える。

生存への脅威

園芸採取、遷移進行（周辺部からのササやススキ、低木の侵入）。

保全対策

生育地の保護管理。

特記事項

南砺市の自生地は、県の天然記念物に指定されている。

